



歓迎のレイを首に、ニコリ!

「ハワイの旅」
近森孝一さん寄稿(堀之内)

義理の姉夫婦の誘いがあった、ハワイの旅に参加する事になりました。一行は兄弟姉妹達六人で、十二月十七日、二十三日の一週間の旅でした。

姉夫婦の長男(田中晃)がハワイに滞在中で、現在ハワイ大学在学中(正確には十二月で卒業だが)なので、是非ハワイに来ないかとの熱い誘いに応じた旅でした。

六人中、私を含めてハワイが始めての者が四人で、一ヶ月以上前から旅の準備で胸がわくわくして出発を待ちました。ハワイ

イは八つの島があり、ハワイ本島(ビッグアイランドという)と小さい七つの島から成っています。ANA(国際線)でオアフ島のホノルルに飛び、国内線で甥の待つているビッグアイランドに着きました。出迎えてくれた甥から、手造りのレイを首に掛けてもらい記念写真を撮ってハワイの観光が始まりました。

常夏と言われるハワイですが、いきなり初日にハワイ最高峰のマウナケア山(4260メートル)に車で頂上に登りました。この頂上には世界有数の天体望遠鏡のある天体観測所があり、現在直径10メートルの望遠鏡を備えており、近い将来世界最大の直径30メートルの望遠鏡を設備する予定だそうです。

頂上の気温は零下五度位ですが、気圧は何と標準気圧(一気圧)の60%位で鼓膜は変になります、私自身は頂上での記憶は余りはつきりしない程でした。しかし、中腹(標高2800メートル)の観測所では天体望遠鏡で木星と四個の衛星をはっきりキャッチ出来た時は感動しました。

翌日ホテルからヒコ空港に案



パイロットのデイルさんと!

内された時全く思いがけないサプライズが待ち受けていました。甥はセスナ機のパイロットの資格を持っており、私達六人を二人づつのペアで各一時間の遊覧飛行をしてくれたのです。ベテランのパイロットと二人協力しての操縦でした。思いがけない夢の遊覧飛行をたっぷり楽しむ事が出来ました。上空からデジタルカメラで思いっきりシャッターを切ったのは言うまでもありません。溶岩の噴火口を上空から思う存分観察することが出来ました。次に空港から島の反対側迄約180kmをレンタカーをそれぞれ交代でドライブしました。日本の車と反対でハンドルは左で右側走行なので勝手が違います。ドライブを楽しむことが出来た。ドライブコースのほぼ中間点に「コナ」という大きな

都市がありここですばらしく観光しました。ここはコーヒーの名産地で皆んな好みの「コナコーヒー」を沢山土産に買い込みました。また、コナ都市は「トライアスロン世界大会」で有名な所です。トライアスロンとは先ず、水泳(4km)、続いて自転車(180km)、最後にマラソン(42.195km)の過酷なレースです。甥はこのレースに二年連続で世界大会に参加して「鉄人」の称号を得たそうです。

三日間過ごしたハワイ島を去る時空港で思いがけない甥自身の作詞作曲によるギター演奏とボーカルで歓迎の歓びと惜別の気持ちを感じてくれた時は思わず目頭が熱くなりました。後ろ髪を引かれる思いで甥に別れを告げてオアフ島に向かいました。昭和十六年十二月八日、日本帝国海軍と空軍が空と海から奇襲攻撃をかけて日米の第二次世界大戦が始まったあの真珠湾を観光しました。

アリゾナ記念館で米軍の犠牲者だけで約一千二百人だったことを知りました。戦争の残酷さを目の当たりにして、戦争の恐